

おうち

テーマ「うちの子のいいところ」

第16号

2010.2



ふくはらそうすけちゃん (年長)



ますざわかおりちゃん (年長)

特集 「うちの子のいいところ」

- ・アンケートの結果
- ・幼稚園・保育所の先生から
- ・2つのささやき
- ・ほめて伸ばす極意
- ・「うちの子のいいところ」

栃木県総合教育センター所長 瓦井千尋

子どもと読みたい一冊 「しろねこ しろちゃん」

掲示板

とちぎの幼・保・小連携 就学にむけての取組

お知らせ

特集

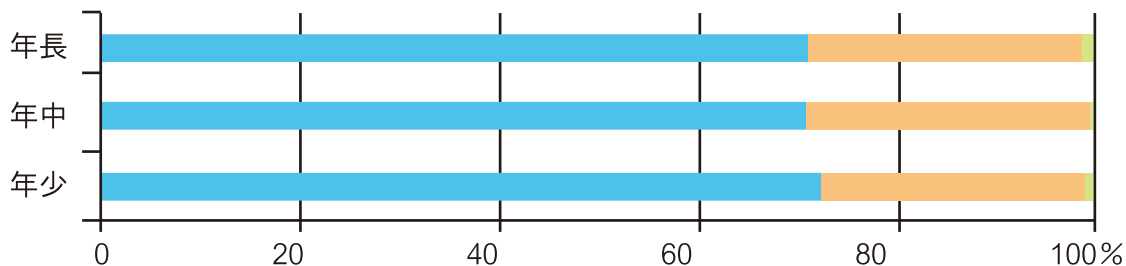
「うちの子のいいところ」

今回は、みなさんにお子さんのいいところやほめ方について、アンケートに答えていただきました。

(対象：県内の3～5歳の子をもつ保護者 回答数：6,296件)

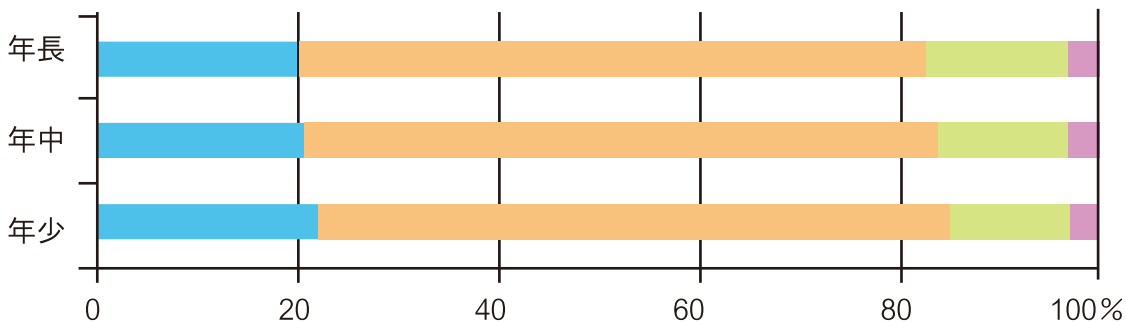
Q1 お子さんのいいところを思い浮かべてください。どのくらいありますか？

■ たくさんある ■ まあまあある ■ あまりない ■ ほとんどない



Q2 お子さんの困ったところを思い浮かべてください。どのくらいありますか？

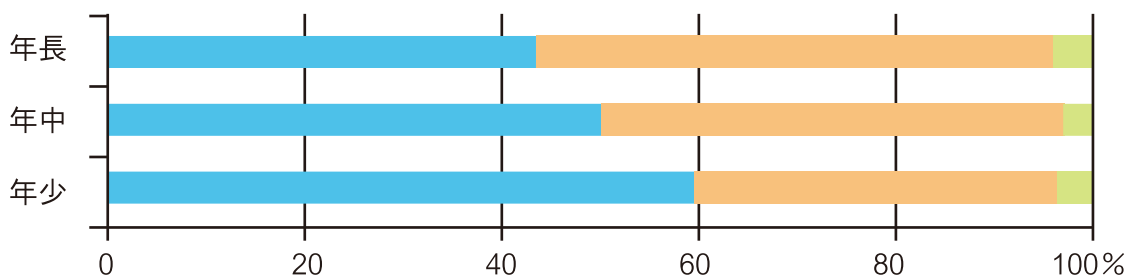
■ たくさんある ■ まあまあある ■ あまりない ■ ほとんどない



◆ Q1、Q2では、お子さんの年齢による回答の差は、あまりありませんでした。どの年齢でも、お子さんにいいところがあるという回答が多く寄せられました。

Q3 あなたはお子さんをどのくらいほめていますか？ 1つ選んでください。

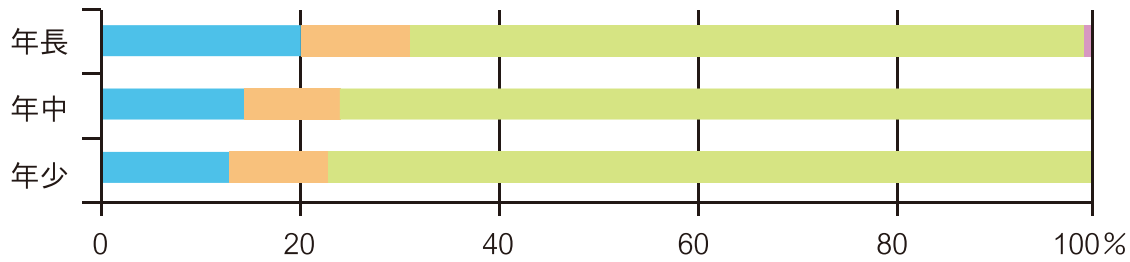
■ 小さなことでもほめるよう、意識的に心がけている。 ■ 気付いたときにほめている。
■ あまりほめることを意識していない。 ■ あえてほめないようにしている。



◆ お子さんの年齢が低いほど、小さなことでも意識的にほめることが多いようです。

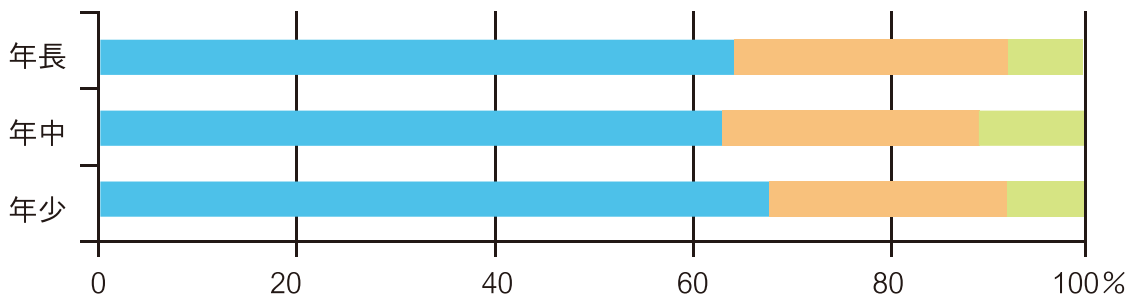
Q4 お子さんをほめるときに、どのように伝えることが多いですか？

- 言葉で伝える。 ■ なでたり抱きしめたりなどの態度で伝える。
- 言葉と態度の両方で伝える。 ■ 言葉や態度に表さないことが多い。



Q5 言葉でほめるときに、どのように伝えることが多いですか？

- 「がんばったね」「えらいね」など、子どもをほめる言葉で伝える。
- 「うれしいわ」「ありがとう」など自分の気持ちを伝える。 ■ その他



- ◆ Q4では、言葉とともにスキンシップをしながら伝えるという回答が多くありました。
- ◆ Q5では、子どもをほめる場合、ほめる言葉で伝えることが多いという回答が3分の2近くありました。



感想やご意見をたくさんいただきました。



夫婦で子どものいいところを話し合ったことがありませんでしたがアンケートをきっかけに話すことができました。

いいところがたくさん思い浮かび、なぜ、私はこんなに叱ってばかりいるのかと反省しました。

「うれしい」「ありがとう」もほめることなのだと気がきました。

ほめすぎてもよくないと思います。どうほめ方がベストなのでしょう。

いいところは考えないと出ないけど、困ったところはすぐに出ます。もう少し、子どものことを考える親になりたいと思います。

最近、恥ずかしい気持ちからか、子どもが「あまりほめないで」と言うので、ほめ方も少し変えました。

ほめるタイミングを逃してしまふことが多いです。

入園したころは、覚えてきた歌を歌うだけで成長を嬉しく感じていましたが、最近は当たり前になり、聞き流してしまっていた自分に気づきました。少しの成長にも目を向け「今の娘」をしっかり見つめたいと感じました。

自分が幼かったころ、親にほめてもらいたくて頑張ったことや抱きしめられてうれしかったことを今でも覚えています。叱ることが多くなりがちですが、たくさんほめていいところをたくさん伸ばしてあげたいと思いました。

アンケートに答えるために、じーっとわが子の顔を見つめてみました。いいところも悪いところもそれなりにあるけど、やっぱりわが子はかわいいです。

幼稚園・保育所の先生から

幼稚園・保育園の先生方は 子どもをほめるとき、どのようなことを心にかけているのでしょうか。そのコツや保護者の方へのアドバイスをいただきました。

- ♣ 「がんばれ」より「よくがんばったね」を多くいうようにしています。
- ♥ 当たり前前かが当たり前前にできた瞬間も逃さずにほめましょう。
- ♣ ほめすぎて、その子へのプレッシャーにならないように心がけましょう。
- ◆ ほめる場面、しかる場面をしっかり見極めましょう。
- ♣ 抱き上げたり頭をなでたりのスキンシップをしながらほめましょう。
- ♥ 「上手だね」だけでなく、「すばらしい、どうやったの!？」と子どもの気持ちを高めています。
- ♣ 努力している過程を「頑張っているね」とほめています。
- ◆ よいところを見逃さないためには、「よく見る」「よく話す」が大切です。
- ♣ 子どもなりに何かできたときに、一緒に喜び共感しています。
- ♥ 認めてもらいたいと思ったとき、必ず親の顔を見ます。そこをも逃さず声をかけましょう。
- ♣ 「宝物だよ」「大好きだよ」のメッセージを送り続けてください。
- ♥ 何がよかったのか、具体的に伝えることも必要です。
- ♣ ほかの子や兄弟と比べないで、その子をほめましょう。
- ♥ ほめられたことを素直に喜ぶ子どもに育てましょう。
- ♣ 園と家庭で「ほめる」連携ができるようになるとういんですね。
- ◆ 一緒にゴミを拾うなど、ほめる機会を作ってみてください。
- ♣ ほめられることは認められることです。親に愛されていると感じる瞬間です。



ほめて伸ばす極意

ほめるといいの？

「できたよ!」「見て!見て!」、喜び満面で期待に膨らませた表情であなたを見つめるお子さんの顔を覚えていますか。

子どもは、何かをしたときやできたときに、そのことを認めてもらうことで、もう一度「やりたい」「やってみよう」という意欲をもち、新たなことにチャレンジします。この繰り返しの中で、子どもは望ましい行動や考え方を身に付けていきます。

小さな発見、気づいたこと、考えたこと、できたこと、できなくても頑張っていること等、ほめるチャンスは、子どもの生活の中にたくさんあります。

それらのことをほめる＝認める→やる気の連鎖が、子どもたちの活動のエネルギーのひとつになるのですね。

2つのささやき

子どもへの言葉のかけ方を、気にとめたことはありますか。

言葉をかけられた時、どんな気持ちでしょう？

DEVIL (デビル)

早くしなさい！

何やってんの！

いい加減にしなさい！

片づけなさい！

何回いったら分かるの！

馬鹿じゃないの！

風邪引いても知らないわよ！

お母さんの身にもなってよ！

いつまでもそうしていなさい！

本当にダメな子ね！

グズなんだから！



どちらの言葉が多いかな？



声に出して
言ってみよう
…ピヨ

ANGEL (エンジェル)

ありがとう。

お母さんにできることある？

がんばったわね。

だいぶ上手になったね。

助かったわ。

あなたのこと大好きよ。

あなたのことを信じてるわ。

お母さんは、あなたの味方よ。

あなたなら大丈夫。

生まれてくれてありがとう。

あなたは私の宝物よ。



—親学習プログラム 資料より—

*親学習プログラムは、栃木県教育委員会が作成した保護者の学びを支援する参加型プログラムです。小グループで、身近なエピソードやデータをもとに話し合いながら、子育てに必要な知識やスキルを学びます。園の保護者会などでもご利用いただけます。

ほめすぎも心配だけど・・・

何でもほめてばかりでは、子どもは何をほめられているのかわからなくなり、ほめられて当たり前と思うようになります。また、ほめる＝ご褒美となって、ほめられることが目的になり、ほめられなければやらないとなってしまったら本末転倒です。

子どもが「よくなりたい」と思っていることを具体的に認め、励ましていきたいものです。

叱ることも必要よね。

よいことをしたら認めて伸ばすように、よくないことをしたら叱るということは、子どもの中に正しい価値観を育てるために必要なことです。このときに、大人が感情的に怒ってしまうと、子どもは大好きな人から自分に向けられた怒りの感情に混乱して、理解できなかつたり反発したりすることが多くなります。

子どもの人格を否定するのではなく、その行為がいけないことだと知らせることが大切です。

参考：子育て小辞典（岸井勇雄：エイデル研究所）



うちの子のいいところ

かわらい ちひろ
栃木県総合教育センター所長 瓦井 千尋

今から30年程前、^{ほど}「欽ドン！良い子悪い子普通の子」というテレビのバラエティー番組がありました。内容は、父親役の萩本欽一と三人の息子ヨシオ・フツオ・ワルオとが会話をして笑いを取る、といったものです。

三人の役どころは、ヨシオが眼鏡をかけ青の学生服姿で見るからに品行方正な学生。フツオは、どこにもいるような、ごく普通の高校生。そしてワルオは、リーゼント頭の不良少年という設定でした。テレビのバラエティーということもあり、この三人の区分けは、^{おそ}恐らく「見た目」によるもの、すなわち外見によるところが大きかったと思います。

さて、今回の本誌のテーマは「うちの子のいいところ」です。この場合の「いいところ」は前述したような外見や見た目で判断をしての「いいところ」ではありません。

多くの子どもたちは、物心がつくようになった頃から、見るもの、聞くもの、触れるもの、何事に対しても、「あれは何？」「これは何なの？」「なぜ？」「どうして？」といった言葉を親や周囲の大人たちに、矢継ぎ早に浴びせてくることがあります。

一方で、良心的な大人たちの多くは、子どもがこうした素朴な疑問や好奇心、興味・関心を持つことは、成長・発達の観点からみて自然な姿であり、子どものこうした状況に、自分たち大人が適時適切に対処していくことは、子どもの学ぼうとする意欲や探究心を育て、個性や能力を伸ばしていくことに大きくつながっていくということも知っています。

しかし、時として、親自身が忙しかったり、急いでいたり、心がそこになかったりすると、ついつい後回しにしてしまったり、親の価値基準と異なる言動に対しては、つれない対応をしてしまいがちになります。「うちの子には、『いいところ』なんてないですよ。」と謙遜気味に話す親御さんは多いと思いますが、実は、子どもに「いいところ」がないのではなく、何が「い

いところ」なのかをつかめていない、というのが本当のところなのではないでしょうか。

「いいところ」というと、同年齢の子どもや兄弟姉妹と比べて、「～よりはよい」「～よりできる」「～より強い」「～より高い」といったような相対的な比較により、^{まさ}勝っている状態を指して言っていることが一般的であり、比較して劣っていればダメ（実際にはダメと限らない）と見なしがちになります。

相対的な比較の結果というものは、その対象とする集団や個人、時期等が変わってしまえば、^{おの}自ずとその結果も変わってきます。ですから、そうした表面的な現象のみに心を^{とら}囚われて一喜一憂するよりは、一個の人間としての内面的な成長とか、他人に対する優しさや思いやりといった人とかかわり方などに目を向けていくことの方がより大切な気がいたします。そのためにも、普段から子どもにじっくりとかかわり、「待つ」「任せる」「見守る」ことを通して、我が子ならではの「いいところ」を見出す眼・耳・心を養っていくことが大切であると思います。

しかし、現実問題として、最近の幼稚園や保育所は、^{ようせい}延長保育や預かり保育をはじめ、外部から様々な要請を受け、多くの役割を背負わされ、肥大化し過ぎる感がいたします。

保育者と保護者との関係が、「あなた保育をする人」「わたし保育を受ける人」といった^{あいたいじ}相対時の位置関係ではなく、双方が知恵を出し合って、子どもを“共に育てる”パートナーとしてあり続けることを願っております。





「しろねこ しろちゃん」

森 佐智子・文 MAYA MAXX・絵／福音館書店



真っ黒いおかあさんから生まれた4ひきのきょうだい。自分だけ真っ白なしろちゃんは、ちょっとはずかしい。でも・・・

おにいちゃんたちと違って、しろちゃんは大切な家族。だって、ほら・・・

掲 示 板

自由意見で寄せられた声です

絵本紹介のコーナーを楽しみにしています。

子どもにお手伝いをどれくらいさせればいいのか、興味があります。

毎回、「おうち」を読むと気持ちが新たになります。遊ぶ・ほめる・叱る、すべて大切ですね。

子どもの行動にハラハラして心配でしたが、西先生の言葉に安心しました。ハラハラするような遊びでも、子どもにとっては必要なのだと気付かされました。



フルタイムで働いているので、「おうち」は他の子や家庭を知る貴重な情報源です。

幼・保・小連携の取組、興味深いですね。今後も成果・結果等を読みたいと思いました。



体力向上には特別なことではなく、日常生活が大切なのだと改めて気づきました。

反抗期、どのような対応がよいのか悩んでいます。

「おうち」のテーマで子どもを見つめ直し、自分自身を見直しています。子どもは親を成長させてくれているのですね。

「おうち」は、栃木県教育委員会の幼児教育担当部門の「幼児教育センター」が、子どもについての情報を提供するために発行しています。バックナンバーはホームページで読むことができます。(アドレスは次ページ参照)

栃木県幼児教育センター

検索

また、表紙の絵やカット、子どものつぶやきなどを随時募集しています。

★アンケートのお願い★

次回テーマ「食で はぐくむ」

子どもの「食」について、みなさんのご家庭では、どのようにお考えでしょうか。アンケートでお寄せください。

「おうち」は皆さんの声で構成する情報誌です。ぜひ、ご協力ください。アンケートは幼稚園・保育所にお出しく下さい。直接、幼児教育センターへお出しいただくことも可能です。

とちぎの幼・保・小連携

⑥ 就学にむけての取組

このコーナーでは、11号から「幼稚園・保育所・小学校の連携（以下「幼・保・小連携」という）」について掲載しています。「幼・保・小連携って一体、何のこと？」という方も多いのではないのでしょうか。簡単に言えば、「幼稚園・保育所・小学校の先生たちが協力し合って子どもの育ちを支えよう」というものです。今回は、小学校への就学にあたって幼稚園・保育所・小学校の先生方がどのような取組をしているのかをご紹介します。

「うちの子、小学校で、45分間も椅子に座ってられるかしら？」「字がすらすら読めないけど、困らないかしら？」など、年長児をもつ保護者の皆さんの中には、このような不安を抱えている方も多いのではないのでしょうか。

また、今まで、バスや車の送迎で幼稚園・保育所に通っていた子どもが、4月からは歩いて通学すると思うとそれだけで心配ですね。

他にも、国語や算数という教科の学習、給食、掃除等、小さな変化がたくさんあります。

でも、安心してください。幼稚園・保育所・小学校の先生方は、この変化を「不安」ではなく「あこがれ」と感じることができるよう、様々な工夫をしています。

小学校を訪問して、1年生と交流活動で仲良くなったり、小学校の生活を体験したりすることもあります。

さらに、幼稚園・保育所では、時計を見て行動できるように声をかけるなど、先生方が上手に小学校生活に近付けてくれます。

一方、小学校でも、入学当初は45分間の授業を短い時間に区切って活動させたり、身体表現やゲームなど遊びの要素を取り入れた学習内容にしたりするなど、子どもの状況に合わせた授業を展開しています。

なお、幼児教育センターや生涯学習課、教育事務所の職員が、小学校の就学時健康診断や幼稚園・保育所の保護者会等で、入学までの心構えや子どものかかわり方などの講話をさせていただくこともあります。



就学時健康診断での親学習プログラム体験の様子

そこでは、ただ話を聞くだけでなく、前ページで紹介した「親学習プログラム」を利用して、保護者同士で話し合ったり、体を動かしながら交流を図ったりする演習も取り入れ

ています。

体験した保護者の皆さんからは「入学する前から、他の保護者と仲良くなれてよかった。」「みんな同じような不安を抱えていることが分かり、ほっとした。」などの感想が出ています。

このように、子どもだけでなく、保護者の皆さんが安心して入学式を迎えることも大切です。

入学まであと少し。お子さんが「早く1年生になりたいな。」と思えるように、ご家庭でも、楽しく準備ができるといいですね。

お知らせ



家庭教育ホットライン（保護者専用）

TEL 028 (665) 7867

保護者の皆さん！お子さんの育児、子育て、しつけ等家庭教育のことや友達、いじめ等対人関係のことなどで困っていること、悩んでいることはありませんか？
秘密は絶対に守ります！一人で悩まず気軽に御相談ください！

受付時間 毎日午前8時30分から午後9時30分まで（日曜日を除く）

※上記時間以外と日曜日は留守番電話・FAX（電話番号と同じ）で対応しています。
栃木県教育委員会

とちぎ テレビ から

とちぎテレビ番組「とちぎ教育新事情」の御案内

「おうち」第16号に関するテレビ番組を下記のように放映しますのでご覧ください。
日 時：平成22年3月21日（日） 10:05～10:25
再放送：平成22年3月22日（月） 12:05～12:25
内 容：「うちの子のいいところ」

幼児教育情報誌「おうち」第16号

平成22年2月発行
発行者 栃木県幼児教育センター
〒320-0002 宇都宮市瓦谷町1070

TEL 028-665-7215
FAX 028-665-7216
e-mail : yokyo-c@tochigi-edu.ed.jp

URL : <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/youji/>